

岩手県〔製氷・貯氷施設回復支援事業 大船渡市漁業協同組合〕  
**製氷能力は3倍以上、貯氷能力は約33%を増量、  
 水揚げから流通まで安定した氷の供給を実現できる  
 製氷・貯氷保管施設が完成し、竣工式が行われました**

10月27日、公益財団法人ヤマト福祉財団（本部：東京都中央区、理事長：有富慶二、以下：ヤマト福祉財団）「東日本大震災生活・産業基盤復興再生募金」の第2次助成先の一つである岩手県の大船渡市漁業協同組合の製氷・貯氷保管施設の竣工式を執り行いました。この施設は、総事業費11億円の内、岩手県・大船渡市負担分の2/9相当額にあたる2億4,800万円を助成したもので、本年2月10日に地鎮祭を行い、建設を進めてきたものです。

岩手県の中でも水揚げが多い大船渡魚市場は、大船渡市をはじめ岩手県沿岸南部の漁業者、さらに沖合の三陸漁場で操業する廻来漁船※の重要な水揚げ基地です。震災で関連施設も含め壊滅的な被害を受けましたが、大船渡魚市場は、岩手県や大船渡市の協力による応急復旧で昨年6月、いち早く市場の営業再開を果たしました。しかし大船渡魚市場への安定的な水揚げを確保し、大船渡市の基幹産業である水産業の早期復旧を図るためには、漁船への氷の供給能力の回復は不可欠でした。この施設の完成で、製氷能力は震災前の3倍以上の1日100トンに、貯水量も2,260トンから3,000トンと約33%増量しました。（※廻来漁船とは地元船籍以外の漁船です）

竣工式で大船渡市漁業協同組合の岩脇洋一理事長は「念願の大型製氷・貯氷施設が完成し、地元漁船はもちろん、積極的に廻来漁船の水揚げ向上を進める体制が整いました。これからは三陸漁場の拠点として、当施設をフル回転させて地元水産業の復旧・復興を進めてまいります」と挨拶をされました。



多くの方が施設の完成を祝い、散餅の儀に集まりました

〔新施設〕  
 建物仕様：鉄骨造り 2階建て  
 延床面積：約2,700㎡  
 製氷能力：100 t / 日  
 貯氷能力：3,000 t



魚種により氷の大きさを変えて供給



貯氷施設からコンピュータ制御で直接漁船へ氷を供給